

2022年 国境なき医師団の活動／2022 The Year in Review



ACT! *special*

国境なき医師団が運営する入院栄養治療センターで、回復した双子の息子たちの姿に目を細める母親。
／2022年7月、ナイジェリア

命の希望をつなぐ活動は、
今年も皆さまの思いと共に。

2022年

国境なき医師団 (MSF) の活動

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で、世界各地で多発した自然災害や、やまない暴力、ウクライナ危機……。多くの人びとが苦境に立たされる中、皆さまのご寄付が大きな後押しとなり、2022年もたくさんのかけがえのない命を救うことができました。心より感謝を申し上げます。その活動の一部をご紹介します。

2月 緊急援助 ウクライナ

病床がひっ迫する東部から、安全な西部の病院へ！
患者と家族を移送する、医療列車を運行。

MSFは2月24日以降、全てのウクライナでの活動を緊急援助に切り替えました。同国には病院もあり医療水準も高いことから、MSFはまず一度に多くの負傷者が運ばれてきた場合の医療従事者へのトレーニングや、物資の提供などを開始。現在は医療列車での患者の搬送や、長引く避難生活で希望を失いかけている人びとへの心身のケアを、70カ所以上の避難所で行うなど、活動を続けています。



© Andrii Ovod
ウクライナ国鉄、保健省と運行する医療列車。重症患者に対応する集中治療室も備える。

【主な活動実績】
医療列車搬送人数
1401人
(2022年3月31日～9月7日)
心のケア
グループセッション
156回
個別の相談件数
849回
(2022年4月15日～5月15日)

【患者さんの声】

「すぐに家へ帰るはずだったのに」



アーニャさん

私たち家族は激しい砲撃から身を守るため、寒い地下室で身を潜めていました。でも町が燃え、家々が崩壊していることを知り、避難を決意しました。紛争が始まる前、夫は鉄道会社に勤め、私は教師でした。普通に暮らしていたのに、いまは恐怖の中にいます。



▶ ウクライナの最新活動情報は
右の二次元コードから

スマートフォンから▲

7月 医療体制援助 イラク

モスル解放から5年。長期にわたる質の高い
医療援助を通じて、街の復興をサポート。

過激派組織「イスラム国」(IS)との戦闘により多くの犠牲を強いられたモスル。5年がたち、橋などのインフラは復旧しつつありますが、医療施設の受けた被害は大きく、医療サービスは依然として不十分なままです。MSFは3つの病院を運営し、産科、小児科、救急、外科の治療を提供。今後は、小児集中治療や整形外科といった専門治療への対応が課題となっています。



© MSF/Florence Dozol
足を骨折して救急外来で治療を受けるジャシム君と、それに付き添う叔父のハムドゥーンさん。

【患者さんの声】

「治療が受けられて幸せです」

サアド・ハムドゥーンさん(写真右端)

ISに支配されていた当時、病院はほぼ機能していませんでした。私には妻と、9年間待ち続けてようやく授かった息子がいましたが、病気になる、命が助かりませんでした。今日甥っ子がこうして治療を受けられることは、本当に幸せです。そして、いまは私にもまた息子が生まれ、人生に光が差し始めました。



▶ 動画で、現在のモスルの街並みや、
人びとの生活の様子が見られます

スマートフォンから▲

8月 洪水緊急援助 パキスタン

予測不能な豪雨で、国土の3分の1が水没。
洪水被害を受けた人びとに、清潔な水と医療を。

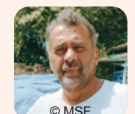
数カ月間続いたモンスーンの雨による洪水で、何百万もの人びとが住まいを失ったパキスタン。被害は広範囲におよび、数多くの医療施設も損壊、機能が停止しました。MSFは8月26日の緊急事態宣言を受け、同国の4州で行っていた活動を緊急援助に切り替えて対応を開始。被災者への基礎医療の提供とともに、清潔な飲み水の供給、石けんや衛生用品など必需品の配布に全力を注ぎました。



© MSF
バルチスタン州デーラ・ムラド・ジャマリでは、2カ所で1万6000リットルの水を提供。

【スタッフの声】

「課題は多く、そして大きい」



緊急対応プロジェクト・コーディネーター
シャビード・アブドゥラ

私たちは可能な限りの援助をしようとしていますが、被害は甚大でした。被災地域にたどり着くのが難しい上、多くの場所で水位が高く、助けを待つしかない人が大勢いたのです。私たちはできる限りそうした人びとと近くへ行き、医療を提供できるよう努力を続けました。

2022 >>>

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

2023 >>>

2月 医療危機対応 ミャンマー

政変によって、医師がいなくなった医療現場。
心のケアの継続に加え、HIV／エイズ治療を再開。

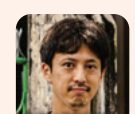
国軍が政権を奪取してから2月で1年。それに抗議を示すため先頭に立った医療従事者たちが現場を離れたことで、公的病院が次々に閉鎖。コロナ禍も重なり、医療体制は崩壊に追い込まれました。この空白を埋めるため、MSFは国に引き継ぎを進めていたHIV／エイズ治療の規模を再拡大。3つの治療センターを開設し、新型コロナウイルス感染症対応にも注力しました。またロヒンギヤなど少数民族が暮らすラカイン州では心のケアも継続中です。



© Ben Small/MSF
MSFの診療所で、HIV治療を受ける女性とその家族。

【スタッフの声】

「全てがひっ迫しています」



救急医 森岡 慎也

MSFの新型コロナ治療センターから重症患者を搬送したくても、その病院でかつてのような治療は望めません。50人ほどいた医師が2人しか残っていないからです。医薬品の輸入も非常に困難で、担当医は苦勞しながら薬を分配しています。

▶ 森岡の体験談全文が読めます



スマートフォンから▲

3月 避難民援助 南スーダン

避難民キャンプで世界初のE型肝炎の予防接種を実施。
汚染された食品や水から、妊婦の命を守る。

暴力や洪水から逃れた約11万2000人もの人びとが暮らす、ベンティウの国内避難民キャンプ。劣悪な衛生状態にあるキャンプではE型肝炎が流行しやすいですが、E型肝炎には特效薬がなく、妊婦の致死率は最大25%と高く、赤ちゃんへのリスクも深刻です。20年間、E型肝炎の流行に対応してきたMSFは、南スーダン保健省の要請を受け、3月に世界初の大規模な集団予防接種を実施。10月にも実施する予定です。



© Peter Caton/MSF
E型肝炎の予防接種を受ける女性。妊婦を含む約2万5000人に実施された。

【患者さんの声】

「予防できるのはありがたいです」



ニェハン・ガイ・ガッチャンさん

ずっと以前に私の母が感染して、目が黄色くなっていたためE型肝炎と診断されました。ですが治療方法がなく、本当に大変でした。私はいま4人の子どもの母親ですが、ワクチンで予防ができるのは、本当にありがたいと感じています。

4月 移民への援助 パナマ

暴力、強盗、性的暴行……。危険な地峡を越え、
パナマへ到着した人びとに、医療と心のケアを提供。

米大陸を南北に貫く幹線道路が、唯一途切れるダリエン地峡。コロンビアからパナマを経て目的地を目指す移民たちは、感染症や武装組織による暴力などさまざまな危険が伴うこの密林地帯を、徒歩で5日から10日かけて抜けなければなりません。MSFは昨年5月の活動開始以来、パナマに到着した移民を対象に医療を提供。今年の春の移民の急増時には、性暴力被害者のケアも増加しました。



© Olivier Barth/MSF
命からがらたどり着いたパナマで、MSFの医師の診察を受ける母親と1歳の女の子。

【主な活動実績】
性暴力被害者のケア
417件
(2021年～2022年5月初旬)

5月 栄養治療 ナイジェリア

繰り返される栄養失調に追い打ちをかけた、
食糧価格の高騰。かつてない危機に援助を拡大。

長引く紛争や治安の悪化から、作物を育てることも、医療へのアクセスもままならないナイジェリアの人びと。さらに世界的な食糧価格の高騰が、最も弱い立場にある子どもたちを窮地に追い込んでいます。北東部ボルノ州のMSFの入院栄養治療センターで、今年1月から6月までに治療をした子どもの数は、前年同期比で約50%も増加。MSFは病床を120床から200床に増床しました。



© Gemma Osodi
ナイジェリア北西部でも栄養危機が続き、多くの母子が診療を待つ。

【主な活動実績】
栄養失調児治療数
2140人
(前年同期比約50%増加)
(2022年1～6月、
ボルノ州の入院栄養治療センター)

ウクライナの戦場から逃れてきた子ども。
国境なき医師団の地域保健担当者がシャボン玉で心をときほぐす。／2022年3月、モルドバ

© Peter Bräunig/MSF

〒162-0045
新宿区馬場下町
1-2-3-801
国境なき医師団セル

国境 太郎（ラベル1） 印

00000000 #

支援者番号: 999999

国境なき医師団は、独立・中立・公平な立場で、医療・人道援助を
展開する団体です。世界約100国と地域で活動しています。

このたびは、国境なき医師団の活動をご支援くださ
り、誠にありがとうございます。
（特製アドレスシール（1シートにつき12枚）を同
封いたします。日々の通信などにご利用いただき
ます。今後とも、国境なき医師団への温かいご支援を
よろしくお願いいたします。

〒162-0045
国境 太郎（ラベル1）

〒162-0045
国境 太郎（ラベル1）

〒162-0045
国境 太郎（ラベル1）

〒162-0045
国境 太郎（ラベル1）

〒162-0045
国境 太郎（ラベル1）

〒162-0045
国境 太郎（ラベル1）

〒162-0045
国境 太郎（ラベル1）

〒162-0045
国境 太郎（ラベル1）

〒162-0045
国境 太郎（ラベル1）

〒162-0045
国境 太郎（ラベル1）

〒162-0045
国境 太郎（ラベル1）

〒162-0045
国境 太郎（ラベル1）

〒162-0045
国境 太郎（ラベル1）

〒162-0045
国境 太郎（ラベル1）

〒162-0045
国境 太郎（ラベル1）

〒162-0045
国境 太郎（ラベル1）

〒162-0045
国境 太郎（ラベル1）

〒162-0045
国境 太郎（ラベル1）

〒162-0045
国境 太郎（ラベル1）

〒162-0045
国境 太郎（ラベル1）

来年も私たちと共に、
希望を次につなげてくださる皆さまへ。

特製アドレスシールをお届けします。
（2023年1月31日（火）受付分まで）

同封の専用払込取扱票で寄付して下さった方に、
日々の郵便物などにお使いいただけるお名前とご住
所を印刷したアドレスシール（1シート12枚）をプレゼント。
**アドレスシールの送付は3月中旬（領収書とは別送）
です。**

※2023年2月1日（水）以降にお受けした寄付については、印刷
手配の関係で特製アドレスシールのプレゼント対象外となります。
※アドレスシールの送付や印字に関する注意事項を同封の専用
払込取扱票の欄外に記載していますので、ご確認ください。

（写真はイメージです）



母親に抱かれながら国境なき
医師団の看護師と会話する、
薬剤耐性結核患者の少女。
/2022年2月、インド

あなたの
寄付で
できること

国境なき医師団の活動が、必要のない世界を目指して。

その日まで、皆さまからのご支援が国境なき医師団の命を救う活動をつなぎます。

はしかのワクチン

120人の子どもたちに、はしかのワクチンを用意できます。

3,000円で
120人分



© Candida Lobes/MSF

栄養治療食

栄養失調の子どもたちに、150食の栄養治療食 (RUTF) を提供できます。

5,000円で
150食分



© Diana Zeyneb Alhindawi

マラリアの治療

24人の子どもたちに、アルテシニンと抗マラリア薬を併用したマラリアの治療ができます。

10,000円で
24人分



© Leonora Baumann

コレラ対策キット

医薬品など予防・感染防止に必要なものが入った12人分のキットを用意できます。

30,000円で
12人分



© Thomas Freteur/outofocus.be

※いただいた寄付でできることの一例です。外国為替による変動があります。

寄付・ご登録情報に関するお問い合わせ

TEL 0120-999-199 通話料無料 (平日9:00~18:00/土日祝日・2022年12月29日
~2023年1月4日休業)

ご登録情報の変更は上記までご連絡いただくか、マイページ(右の二次元コード)でお手続きください。

発行元: 特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST 早稲田FIRST 3階



スマートフォンから▲

ぜひチェック&フォローしてください

公式ウェブサイト
www.msf.or.jp

Instagram
@msf_japan

Facebook
@msf.japan

LINE
@msf_japan

Twitter
@MSFJapan

YouTubeチャンネル
国境なき医師団日本